

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 1 NUMBER 4 2022



巻頭言 秋の研究会大会に向けて

令和4年度研究会大会 実行委員長 溝上 陽子(千葉大学)

令和4年度秋の研究会大会を、11月26日～27日にオンラインで開催いたします。現在、日本色彩学会には12の研究会(美しい日本の色彩環境を創る研究会、画像色彩研究会、カラーデザイン研究会、環境色彩研究会、くらしの色彩研究会、感性・データ科学・コスメティクス研究会、視覚情報基礎研究会、色覚研究会、色彩教材研究会、測色研究会、白色度研究会、パーソナルカラー研究会)があります。通常は個別に活動しているため、研究会大会は研究会どうしの交流を深める貴重な機会といえます。今回は、9研究会が参加して開催する運びとなりました。

11月26日には、色彩文化系3研究会(色彩教材、くらしの色彩、美しい日本の色彩環境を創る)による合同発表会を開催します。また、日本色彩学会や研究会による活動や企画をより深く知っていただくため、研究会活動・学会企画紹介セッションも設けました。交流会も企画しますので、気軽に楽しくお話をする機会にしていいただければ幸いです。

11月27日には、色彩科学系5研究会(画像色彩、感性・データ科学・コスメティクス、視覚情報基礎、色覚、測色)による合同研究発表会を開催します。その後カラーデザイン研究会による企画が行われます。

色彩科学系5研究会の招待講演では、中内茂樹先生(豊橋技術科学大学・教授)に「絵画配色の好みに見られる普遍性」というテーマでご講演いただきます。先生のご研究では、絵画の配色という、純粋に画家の感性が反映されるように思えるものでも、多くの人の好みが一一致することを示されました。しかも、その好みは実験参加者の国籍、絵画の種類の違いによらず、共通していたとのことでした。絵画配色に対する好みの普

遍性は、私たちが感じる「美しさ」といった感性的なものが、文化的背景や教育経験だけでなく、何らかの生物学的な共通基盤を持つことを示唆しています。これは視覚の基礎メカニズムから感性へのつながりを示唆するものでもあり、色彩科学系と色彩文化系いずれの方々にも興味をお持ちいただける内容と思います。

カラーデザイン研究会の企画では、カラーデザイン用語を取り上げます。2022年3月にJISZ8105色に関する用語が改定され、ベースカラー、アクセントカラー、清色、濁色といった、カラーデザインに関する用語が57語、新規に追加されました。カラーデザイン研究会では、これらの用語の意味を正しく理解するための活動を進めていく計画であり、そのキックオフ・ミーティングという位置付けです。山下明美先生(岡山県立大学・名誉教授)に「ビジュアルデザインと配色2」というテーマでご講演いただき、その後ディスカッションを行います。

そろそろWithコロナ時代に入ってきたといえるなか、学会も対面開催が増えつつあります。本年の全国大会でも、ハイフレックス開催で、みなさまと直接お会いできることの喜びを実感しました。一方で、オンライン開催には、どこからでも気軽に参加できるという大きな利点があります。今回の研究会大会は、過去2回の研究会大会(旬間)で培った手法を受け継ぎ、その良さを最大限生かした大会とするよう、実行委員全員で運営に努めてまいります。ぜひ多くの方のご参加をお待ちしております。そして、研究会活動に関心を持ったり理解を深めたりするきっかけにしていいただければ幸いです。研究会大会でみなさまにお目にかかれることを楽しみにしております。